

ほっとネット

Contents

P1 巻頭言

院長就任のご挨拶

院長 四十坊 典晴

P2 特集

基幹型臨床研修病院に向けて

副院長 吉田 英昭

P3 診療科発

消化器内科

副院長 安達 雄哉

P4 部門紹介

臨床工学室

副技士長 浦崎 伸吾

P5 地域発

さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニック

院長・医学博士・内科医 竹内 淳先生

P6 研修医だより

研修医 雨池 秀憲

P6 新任医師紹介

JR札幌病院 間違い探しゲーム

ほっとネット51号当選者発表



入社式



新採用者研修



JR札幌病院 基本理念

心の通う医療

信頼される医療

地域社会に貢献する医療

基本方針

1. 社会のニーズに合った専門的な医療を提供するよう、医療技術の向上に努めます。
2. 患者様の権利を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 地域の各機関との連携を重視し、地域医療に貢献します。
4. JR北海道の職域病院として、社員・家族の健康増進に寄与します。



H29.10.6 日本医療機能評価機構より
3rdG : Ver.1.1の認定を受けました。



巻頭言

院長就任のご挨拶

令和2年4月にJR札幌病院の第20代病院長を拝命いたしました四十坊典晴です。よろしくお願いいたします。

令和1年12月には発生した新型コロナウイルス関連肺炎が世界的な流行となりました。医療機関では感染防止対策が重要な課題となっており、当院でも可能な限りの対策を講じております。院内感染防止対策や医療事故防止対策をしっかりと行い、急性期機能を中心とした医療を継続して参りたいと考えております。

当院は今後も地域に根ざしたより良い医療の提供と信頼される人間医療をめざしており、多くの専門の診療科を有する総合病院として、双方向性の病診連携、病院連携を深めていくことに常に努力しております。以前から導入していた電子カルテを本年1月にシステム刷新し、各種機能を充実させ、より良い医療が提供できるように努力しております。さらに、患者様を紹介して頂くために、種々の取り組みを行っております。また、呼吸器領域および消化器領域のがん診療を充実させ、北海道がん診療連携指定病院となっており、地域の諸先生からがんでお困りの症例に関しても対応できる体制を整えておりますので、ご相談、ご紹介よろしくお願いいたします。さらに、亜急性期の患者様に対応するために、地域包括ケア病棟を当院でも開設し、退院まで日数を要する高齢者やリハビリが必要な症例に対応できるようにしましたので、対象となる患者様がございましたら、ご相談、ご紹介よろしくお願いいたします。加えて、急性期医療の充実をさせるために、より重篤な症例の入院治療が必要な患者さまの応需のために、ハイケアユニット(HCU)を平成29年4月から開設しており、循環器内科、外科、消化器内科、呼吸器内科で行っている救急対応をさらに充実させております。

いずれの取り組みも地域医療連携センターを介して行っておりますので、詳細に関しては地域医療連携センターにお問い合わせください。

今後も諸先生の御支援を頂きながら、地域に名指したネットワークの構築を目指していきたいと考えておりますので、御協力よろしく御願ひ致します。

末筆ながら、諸先生がご健勝で活躍されることを御祈念申し上げます。



院長
四十坊 典晴



笑顔あふれる呼吸器科外来スタッフ

↑第18代院長 平賀 洋明
↑第20代院長 四十坊 典晴



特集

基幹型臨床研修病院に向けて

これまで当院では北海道大学病院および札幌医科大学附属病院の研修プログラムの協力型研修病院として初期研修医を受け入れてきました。定員も1年目、2年目それぞれ2-3名程度としており、必ずしも積極的に働きかけることはなかったように思います。多少、“お預かりしている”ような意識で各科の指導医が接していたかもしれません。

最近では卒前教育の段階で他職種との協働が重要視され、病院実習いわゆるクリニカルクラークシップでも実習期間の延長とともに他職種との関わりを求められています。疾患の診断と治療の勉強のみを求められていた時代から、一人一人の患者について問診から身体診察に始まり診断へのアプローチ、そして治療選択、退院後の診療計画まで積極的に参加することが理想とされています。特に医師だけではなく多職種でのカンファレンスが重要視されます。これまで1~2週のローテーションで札幌医科大学の5年生を受け入れてきました。昨年からは同大学の依頼で6年生も希望診療科で4週間の実習を4クール受け入れています。看護学生や薬学部の学生、臨床工学技士養成校の学生など継続的に受け入れてきた経験もあって、病院のスタッフが医療者を育てるという意識の高さがあることを実感いたしました。

卒前教育だけではなく、卒後教育も積極的に参加することは、医師だけではなく病院全体のモチベーションが上がり、個人においても教育することは自身も勉強しなければならないため自分のスキルも向上することが期待されます。病院の活性化にも繋がることから、責任を持って当院で研修医を育てることを目指し、当院の特色を生かした基幹型病院となれないか昨年春に検討しました。



副院長
吉田 英昭

幸いにも他の病院と連携を取ることと施設基準を満たせそうであることが判明し準備を進めました。

2020年度から初期研修医制度が大きく変更になることもあり、これまでの認識と違いに戸惑うことばかりでした。研修や説明会への参加、研修プログラムの整備、申請書類作成、厚生局からの訪問審査など経験し、改めて当院の良いところと改善していかなければならないことを認識できました。幸いにも過日2021年度から基幹型病院として研修医採用することが認められました。ここ数年間は北海道では新規の申請がなかったようで、制度変更もあって厚生局の担当の方々も大変のようでした。

今回の初期研修医の基幹型臨床研修病院になるにあたって、JR札幌病院で育てる研修医の特色を出して欲しいと宿題をいただきました。急性期から慢性期・在宅医療への橋渡し、地域医療の重要性と参加、2年間でプライマリーケアの基本の修得と実施・一般外来のスキルも求められると伺っています。病院の活性化とともに札幌や北海道で活躍する医療人を育成する一助になればと願い、基幹型となりましたが、これまで以上に各医療機関の皆様との連携やご協力が必要なことは間違いありません。どうぞよろしくお願いいたします。





消化器内科



副院長
安達 雄哉

【当科の特徴】

- 2020年4月から標榜科を「内科・消化器内科」から「消化器内科」へ、患者さんに分かり易い名称に変更しました。今まで以上に専門的かつ高度な診療を提供することに努めております。
- 「新患外来」を設置し、新患患者さんを長時間お待たせすることなく診察いたします。
- 食道、胃、大腸などの消化管疾患と肝臓・胆道・膵臓疾患の専門医が所属しており、ほぼ全ての消化器疾患に対応可能です。

【診療内容】

●このような症状のある方を診ています

- ・胃痛、みぞおちから胸にかけての痛み、胸やけ
- ・食べたものがつかえる、胃がむかむかする、食べたものを吐く、血を吐く
- ・食欲がない、体重が減った
- ・お腹が痛い、お腹がはって苦しい、背中や肩にも痛みがある
- ・下痢、便秘、下痢と便秘を繰り返す、緊張するとお腹が痛くなる
- ・便の異常：真っ赤な便、血が混じった便、赤黒い便、タールのような黒い便、粘液が混じった便、ウサギの糞のような便

- ・身体が黄色くなった、以前のようにお酒を飲めなくなった
- ・人間ドックやがん検診などのバリウム検査、内視鏡検査、便潜血検査で異常を指摘された方、血液検査で貧血、肝臓の異常、ピロリ菌の疑いを指摘された方

●消化器内科で診ている主な疾患

- ・上部消化管疾患：胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、機能性ディスペプシア、ポリープ、食道静脈瘤
- ・下部消化管：慢性便秘、大腸ポリープ、腸閉塞、感染性腸炎、虚血性腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群
- ・肝疾患：急性肝炎、慢性肝炎、自己免疫性肝炎、脂肪性肝炎、脂肪肝、肝硬変、原発性胆汁性胆管炎
- ・膵・胆道疾患：胆石、胆管結石、急性胆嚢炎、胆嚢ポリープ、急性膵炎、慢性膵炎
- ・悪性腫瘍：食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、胆嚢がん、胆管がん、膵がん、嚢胞性膵腫瘍、GIST(消化管間質腫瘍)、消化管悪性リンパ腫

【スタッフの紹介】

●副院長 安達 雄哉

日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構認定医
日本肝臓学会肝臓専門医・暫定指導医
JACEカプセル内視鏡認定医・指導医
日本内科学会認定医・総合内科専門医
日本膵臓学会認定指導医
札幌医科大学大学院 臨床准教授

●科長 志谷 真啓

日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本がん治療認定機構認定医
日本膵臓学会認定指導医

●主任医長 三橋 慧

日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会専門医・北海道支部評議員
日本消化器内視鏡学会専門医
緩和ケア研修会修了

●主任医長 伊藤 美樹

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本消化器病学会専門医
日本内視鏡学会専門医・指導医

●主任医長 伊早坂 舞

日本内科学会認定内科医
日本内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医

【連携について】

1. 消化管から肝胆膵領域まで、ほぼ全ての消化器疾患に対応します。
2. 朝食を抜いてご紹介いただければ、当日に胃カメラ、エコー、CT検査が可能です。
3. 患者さんの希望にそって、鎮静下での胃カメラ、大腸カメラを実施しております。
4. 消化器外科と綿密に連携して診療にあたります。
5. 病診連携と外来機能分化を重視して、安定した患者さんは積極的に皆様の医院・クリニックへ逆紹介します。

消化器内科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、理学療法士、医

療ソーシャルワーカーらと共に皆様の診療のお役に立てるよう、より一層の努力をしていきたいと存じますのでよろしくお願い致します。



消化器内科医師と内視鏡室スタッフ

部門紹介

臨床工学室

臨床工学技士ってみなさんご存知ですか？

聞きなれない方も多いかと思しますのでご紹介させていただきます。

臨床工学技士は資格が誕生して31年と歴史が浅く、2020年現在で約24000名が全国で働いております。

医学技術の発展は目覚ましく、現代の医療は医療機器が

なければ成り立ちません。その医療機器を熟知し、医学と工学の両方の知識を持ち、医師の指示の下生命維持装置の操作や保守管理を行い、医療を支えているのが“いのちのエンジニア”臨床工学技士です。

現在当院には9名の臨床工学技士が在籍しております。



副技士長

浦崎 伸吾



働く場所は幅広く以下のような場所で主に業務を行っており、各分野に関し概要をご紹介します。

【透析室】

腎臓の機能が低下した患者様の腎臓の代わりに人工透析を行う場所で、我々は材料の準備・穿刺を含めた透析の開始及び終了、透析装置の保守管理に従事。

【手術室】

麻酔器や患者監視装置の始業前点検から、内視鏡を使用した手術の準備、カメラ接続や映像の管理などを行い、その他手術に使用する様々な機器の使用に関するアドバイスからトラブルシューティング等。

【血管造影室】

カテーテルを使用した心臓の血管治療や下肢の血管治療の際に材料管理や血管内超音波画像などの作成、術野での医師へのサポートなど。

【医療機器中央管理室】

医療機器安全管理者のもと、中央管理されている機器から一部固定配置されている機器まで合計500台を超える機器の保守管理を行っており、総点検件数は年間20000件以上。

【HCU】

重症な患者様に人工呼吸器や特殊血液浄化、補助循環など高度な医療が展開される場所でチームの一員となってサポートや技術提供。

【外来】

徐脈性不整脈に対し使用されているペースメーカーや、便失禁に対し使用されている仙骨神経刺激装置などの体内植え込みから外来での定期チェックを行い、医師と情報を共有し円滑なフォローアップの実施。

【病棟】

病棟に配置されているセントラルモニターや除細動器、ビデオ喉頭鏡などいつでも安全に使用できるように点検を行い、使用する医療機器の相談を受け付け対応。

これらのように非常に幅広い分野と診療科に関わる業務を行っており、365日24時間いつでも臨時業務に対応できるよう交代で待機態勢を確保し、より安全で高度な医療提供をサポート出来るよう頑張っております。

地域発

さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニック

院長・医学博士・内科医 竹内 淳 先生



当院は2013年4月にJR札幌駅北口に糖尿病と甲状腺の専門のクリニックとしてスタートしました。当時“糖尿病”と“甲状腺”の2つを専門とするクリニックは少なく、なぜこの2つを専門としたかと聞かれることがありました。

糖尿病、甲状腺疾患は私たちのような“内分泌代謝科専門医”が担当しますが、両者に共通する点は2つあります。“定期通院”が必要となること、もう一つは様々な“合併症”を起こす可能性があることです。糖尿病やバセドウ病、橋本病などは長く付き合う必要のある病気で合併症も複雑なため、当院では“集学的診療”を実践しています。集学的診療は、もともと根治不能ながん治療であらゆる手段を取り入れることを意味する用語ですが、当院では糖尿病、甲状腺疾患の患者さんにできる限りの方法を追求するために、この言葉を用いています。

まず定期通院の利便性を考えて交通の中心地である札幌駅で開業、その場所への1回の受診で検査と治療を完結できるために、専門診療に必要な殆どを自院に揃えました。当院では採血・尿検を行なった後、超音波検査や看護師・管理栄養士の面談を行っている間に検査結果を出し医師の診察を行う、といったことが1時間程度で可能です。

そして院内で診療を完結させる上で最も重要なことは“診療の精度管理”です。検査結果を正しく出すために、専任の臨床検査技師が毎日院内での精度管理を行い、年複数回外部の精度管理を受けます。専門クリニックでは医療スタッフの“診療の質”も大切です。医師が医師免許取得後に専門医を取るように、当院の医療スタッフも国家資格取得後に専門資格を取っています。看護師、保健士、管理栄養士の殆どは“糖尿病療養指導士”という資格を有し、超音波検査を行う臨床検査技師は全て“超音波検査士”という資格を取得しています。現在10名の糖尿病療養指導士が糖尿病患者さま一人一人に合わせたきめ細かい面談を行い、甲状腺、頸動脈、心臓、腹部の超音波検査は5名の超音波検査士が担当します。フィットネス室では有資格者の看護師が血管外科医師と連携し、足病変の早期診断と適切なタイミングでの治療を行います。もちろんインスリンなどの自己注射が必

要な糖尿病患者さまへの自己注射の指導も行います。

また医師が院長一人のクリニックでは診療が偏ってしまう可能性も考え、当院では北海道大学第2内科の医師が1日最大5診体勢で診療に携わっています。より多角的な診療を目指すとともに、患者さまに自分の合った医師を選んでもらうことを目的としています。

集学的診療の一環として、生活習慣病の患者さんでも安心して行ける健康レストランも運営しています。世の中は低糖質ブームですが、当店は“適正糖質”を勧めています。糖質比率が高くなってしまいがちな外食で50-60%の糖質比率が守れるメニューを提供しています。低糖質は一時的な体重減量や血糖コントロールに有効ですが長く続けると逆に健康を害することがわかってきました。適正量の糖質の摂取は体の健康を維持するためにも重要です。

クリニックでは定期通院と合併症の早期発見と早期治療を担当し、合併症で入院が必要となった場合には早い段階で総合病院に相談するといった連携が必要となります。JR札幌病院は当院の近隣という立地条件だけではなく、高度先進医療を行っていること、入院の受け入れがスムーズであることから大変助かっています。

最後になりますが、本年2月アスティ45に分院を出すこととなりました(さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニックアスティ45)。分院は土日の診療を行うことで、平日は多忙で通院を中断してしまう患者さんの救済を考えています。より通院に利便性の高い診療を続けていきたいと考えています。



さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニック(本院)運動室

適正糖質とワインの店
ローカーヴ
(中央区北2条西3丁目1-29
タケサトビル地下1階)さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニック アスティ45
(中央区北4条西5丁目1番地 アスティ45)

さっぽろ糖尿病・甲状腺クリニック

〒060-0807 札幌市北区北7条西2丁目8番地1 札幌北ビル2階
TEL: 011-707-1024

院長 竹内 淳

診療科 糖尿病内科 内分泌内科 循環器内科 心臓血管専門外来
受付時間(予約制)

平日 8:00~17:00 土曜日 8:00~12:00

(第2、第3土曜日 8:00~17:00)

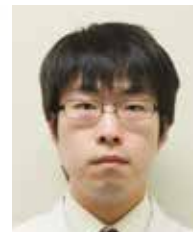
休診日 日曜・祝日

研修医だより —1年次研修を終えて—

当院の臨床研修では、優れた指導医のきめ細かい指導体制のもとで多彩な症例を経験することができました。

各診療科の敷居が低く、ローテートしている科以外の先生にも気軽に相談することができる環境は非常に良かったです。

2月の内科学会地方会は初めての発表でしたが、賞をいただくことができました。夜遅くまでスライドの推敲を手伝っていただいた先生方には心から感謝しております。



研修医
雨池 秀憲

医師としての知識も経験も未熟ですが、これからも日々努力を惜みまず仕事に励んでいきたいです。

短い間でしたが、ありがとうございました。



新任医師紹介

①略歴 ②専門分野 ③趣味 ④一言



外科 さいとう 齋藤 けいた 慶太

①平成12年旭川医科大学卒業し、札幌医科大学第一外科入局。滝川市立病院、瘍研究会附属病院、道都病院、道立紋別病院、市立室蘭総合病院を経て令和2年4月より当院勤務。

②外科

③子供とのお出かけ。美味しい食事。

④良質な医療を提供できるよう努力します。宜しくお願い致します。



消化器内科 いそさか 伊早坂 まい 舞

①平成18年札幌医科大学卒業、市立室蘭総合病院、札幌医科大学附属病院、市立小樽総合病院、道立江差病院、札幌同交会病院、再び市立室蘭総合病院勤務を経て令和2年4月より当院勤務。

②消化器内科

③読書、音楽、散歩

④丁寧な診察を心掛けたいと思っています。よろしくお願いいたします。



腎臓内科 おがわ 小川 としふみ 俊史

①平成26年札幌医大卒、初期研修：市立釧路総合病院、札幌医科大学付属病院。その後、札幌医科大学付属病院 循環器・腎臓・代謝内分泌内科入局、帯広厚生病院、道立江差病院、札幌循環器病院 令和2年4月より当院勤務

②内科一般、循環器内科、腎臓内科

③お酒、温泉

④丁寧・親切な診療を心がけます。よろしくお願いいたします。



皮膚科 さとう 佐藤 かずまさ 一正

①平成25年旭川医科大学卒。北海道大学病院、JR札幌病院、函館中央病院を経て令和2年4月より当院勤務。

②皮膚科

③餃子作り

④患者様の訴えに耳を傾け診療してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。



呼吸器内科 たかはし 高橋 はるか 晴香

①平成27年札幌医大卒業。KKR札幌医療センター、札幌医科大学附属病院、NTT東日本札幌病院、手稲済仁会病院を経て令和2年4月より当院勤務。

②呼吸器内科

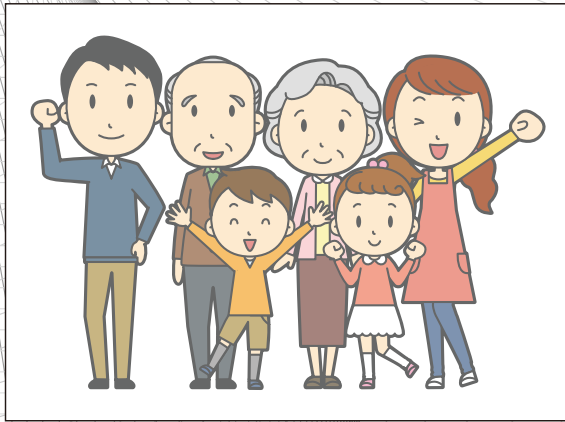
③音楽鑑賞

④精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

クイズに答えて
景品を当てよう!!

JR札幌病院 間違い探しゲーム

2つの写真から、5つの間違いを探そう!
正解者には、抽選でクオカードがもらえるヨ
息抜き、暇つぶし、頭の体操にやってみよう~



応募要項

応募期間: 令和2年6月1日~6月30日

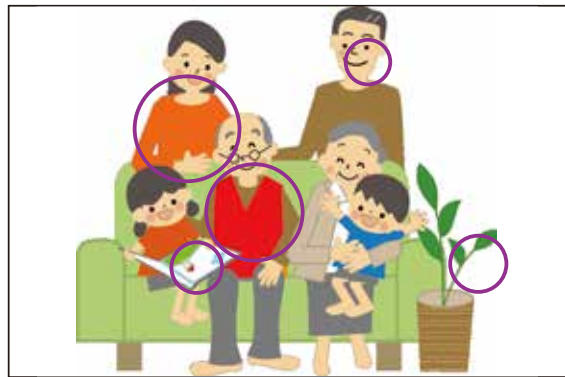
応募方法: 応募用紙の写真の間違い箇所には○を入れ、地域医療連携センター前に設置の応募箱へご投函、又は、紙面上の写真を切り取って(コピーも可)○を記入し、住所・氏名を記載の上郵送でご応募ください。

応募先: 〒060-0033 札幌市中央区北3条東1丁目 JR札幌病院 地域医療連携センター
※氏名の公表を希望されない場合はペンネームを掲載いたします。

発表方法: 広報誌『ほっとネット』紙面上にて発表いたします。

ほっとネット51号当選者発表

5つのまちがいは



応募総数 **26人**

抽選の結果、次の5名の方にクオカードをお送りいたします。

田中 大貴 様、コト 様、りんりん 様
るいるいちゃん 様、渡辺 美和 様

編集後記

昨年より院内全体で準備してきた基幹型臨床研修病院が無事認定されました。多数の医療機関の先生、事務担当者の方には本当にお世話になりました。喜んでいるのもつかの間、研修医の募集方法については合同説明会の複数回参加の一択でしたが、コロナウイルスの感染拡大を受け、すべて中止……。2年間研修医受け入れの実績がなければ取り消しになってしまいます。なんとかしなければ!!本気を出して考えます!

当院の前がマラソンのコースだったオリンピックも延期となり、恒例の病院感謝祭の中止も決定となってしまいました。感染防止のためにはしかたありません。

みなさんも手洗いと咳エチケットを日頃から気をつけ、感染を予防しましょう。そして一日も早く、流行が治まることを祈っています。(y-m)

発行日/2020年6月1日

編集長/伊藤 峰幸

編集者/大村 早代・小原健太郎・河野 通晴・中澤 英之
正木 良紀・松本 道明・安藤 和馬・寺田 基

発行所/札幌市中央区北3条東1丁目

JR札幌病院 広報誌企画編集委員会

<https://hospital.jrhokkaido.co.jp/>